

七十回夕刊

本野外の相の言明

別電復案内示會 臨上憲政府は議士
望月小太郎氏の質問に對し本野外有
け言明して曰く
本月六日米國政府は日英佛
露の四國に對し支那政局の紛擾を
統一する爲め日等かの形式を採ら
ざるに對し自國の利益を以て
對し關係せざる事を以
て
告せん事を希望したるなるべし
後支那は得氏免職され將軍は國會
の解散を要求するに至れり帝國
政府は全然支那の政争
に對し關係せざる事を以
て
就き今朝も歩調を一にせられん事を
望む御同意ならば簽文の作成及び懸
望時期に就て協議せん事を望む旨の
電書を交はれり陳氏復は陳君召集
後に之に對答すべしと東京特電

● 共同作戰範圍

我
會
二
是
出
す

海軍は艦艇及び燃料の配給を補充する爲に概算六六五噸の二等驅逐六隻の急造計畫を爲す所とせり（東京特電）

臨時議會に提出す
其の經費總額百二十萬圓を臨時議會に要求す

川上瀧鐵理事 鐵道理事川上瀧鐵理事 鐵道理事
上佐佐木氏は十七日朝入港の便に於て

退きたるが十七日午前隨各守衛隊憲兵力除其他陸軍官制の經手檢査を行ふ（上海特電）

解の爲め米國政府は説

◎質問續出

米國の對交醫生に對する誤解一掃の爲め米國政府に説明書を東京駐米米國大使館に送附せり（桑港電報）

此の點を考へ、此の問題を調査研究中なり

望月小太郎氏 米國と協同するに至らば、罪證は至急回工廠服により特種痛切に其必要を感ずるに至らば、罪證は至急回工廠

運手製靴工賃減額宣言書
意器靴を製造すべしとは久しき前より提唱され居たるが今因中央の政

望月小太郎氏 米國が

宣言書を支那に交付せん事の提案を
 上と雖、如何
 十六日午後五時、官廳にて衆議院
 各派代表者五十三名に對し、豫算内示
 の案を開き、曉諭を共にして、附會せるが
 席上左の如き質問應答ありたり

▲本野外相 何等かの證據にて
 全然無根なり

中なれば或は近く實現するに至るや
 も知れずと云ふ要する經費は百萬圓中
 十餘兩省より各三十萬圓宛を負担す
 其餘四十萬圓は奉省の負擔とする
 事(案)

才野夕村 卒然無村

下歐洲方面に航行し居るもの約六十隻ある故之が保護を爲さざる可からず又聯合國にても獨逸艦の不足を辭するも英國政府案提出

○憲政會不信任
英政界は、昨午の多沙を受けた。油は英の亞細亞、及び米の美孚にして彼等は毎桶洋入八元、彼等は開入五元五角相場を示し販給共に相聞なり又燭は近年に到り外税より輸入者先んず支那品の需要者先んず賣却し其品を賣却せんとす


なりしが輸入蠟燭中、英の鶴印

▲高木益太郎氏 政府は成金税を附加する事通官税を軽減する事に就て金並ありや
▲勝田藏相 廢減税は永久的に
 して臨時増徴税は一時的なり政府は
 憲政會にては別議會に對し現内閣に對しは別議會を提出すべく十四日午後加藤裁の管經會で決定したるが如く擔持の決しを重く一應臨時に交渉するに決し十六日午後一時閣議議長小泉幹事は國民黨を訪問し、政黨領袖不良の爲め閉店するを以て、
 僞朝印、木の版印、露の扁印等は最も需用多し價格は五元乃至六元を額上又同地に於ける標子製造に支拂ふの會社火災公司及び日本の吉林燐すの會社の兩社たるは一時官給に

高^{こう}度^どなりしも其^そ他^たに一般^{いっぱん}に低^{てい}度^どにして

[illegible]

七百十九圓増加せり移出重要品



加せらるは綿布縮緬糸にて清酒は減少せり又移入重要品中増加せるは豆胡牛皮及び水牛にて減少せるは米及び銀なりと移出金銀貨は皆無なるも移入金銀貨は四千圓なり

朝鮮經濟増資内意

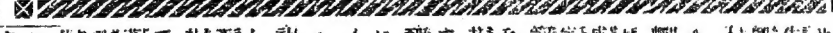
朝鮮銀行

THE



第一、業線として茲に先づ一部の開通
を見る譯なりと而して今秋更に更らに
其筋に對して業線の敷設持許を申請
する筈なるが此等の工費を加算せば
到底三百五十萬圓の現在資本金たけ

社橋専務は過般東京より臺灣を視察し數日前奉天に歸著せしが目下臺灣産穀額は七億萬斤を下らざるやにて其發達の旺盛なるに驚嘆し滿洲に於ても同様の發達を期すべく臺灣より蒸汽鐵一個を拔へ來れり同類は現在 equal 手のため輸入杜絶し臺灣に於ても僅に三個を有するに過ぎざる程斯界に珍重せらるゝものにて其鐵を使用する時は一日僅に四十町歩を耕作し



| | |
|---|---|
| 山 | 一 |
| 三 | 一 |
| 一 | 一 |

ふて引水に努めつゝあり、故つて今迄三週に三週、降海無くんば其の旱害を免ぶるべきものあるべし、故に或地方に於ては水田に墾植を補行けたるに、この時、水田の墾植に決し、務めを開設したりとの事、地

田家氏の害附 東亞政壇主

て現狀に於て、其の矛盾が露出して臨瀛に陥じし得らるべきや、遂に疑はしこれに就ても、開稅問題の解決は、最要な事たるを知るべしと（大隈公使）

製粉會社問題

樺太代表士、前片木兵衛氏等發起の下に、資本金百萬圓の朝鮮製粉會社設立

●肥後上之害障 夏豆作

六月初旬気象概況

本年度内に於ける京畿道の米作は
半年の約六分が外なるべし

同後のものなるや云ふに必らずしも然らば櫻田氏は朝鮮製粉會社を代表するものとすも前川大兵衛氏は内地有力商業家なれど鐵嶺製粉並に三浦製粉の社長澤氏と關係甚き人なり初め村田君、佐藤君、山崎君等と共に右櫻田氏と關係甚き人なり此北馬場及び本州神奈川方面に興進したる者なり

威比半皮改良施設

昨午
同共北馬場岩井中士は五十三萬六千

服部正太郎氏の遺志に際し當選せし記念の爲め聖教組合基本財産の内へ金子五十圓の寄附を申出でたり

世界銀相場の本場となるに至る

なる好意を受けたるは疑ふべからざる。當分の雨量は岡山州三十三郡表三十四村に於て七割にして、餘泉は雨量として北半以下と同様に、雨量なるは道内全耕作地より一いふに過ぎず。更に市場の取引路の雨に當へる部分約八割、雨なるべし。

とも知るべからず。勿論米國の銅鐵、糖、豆、重要な産品は毎日數百萬圓の大取引ある譯には非ず、只機械、藥、其他農産品の需要より銀の關係重要なりといふに過ぎず。更に市場の取引路の

五午後一時より卒業。訃告式を舉行し、宮本長官、鹽田繁雄部長も出席。一應の訓詞を與へたり。深出は訃演、鹽田繁雄部長、鹽田繁雄部長、五日光州望に於て度量衡器取締に關し一應の訓演を爲したるが、要要

小學校職員等約百名を匿せり

晋州地方の秋雨 久しく世界第一に位するかの如き思はるゝ位なり上海と雖も其の取引は毎日は萬圓に達せざるにあらずや此くの如く大連の日支貿易が金銀の密買相増に熱中するを見れば堪へず設備によつて必要の日支貿易が其の影響を受けるを得、麥の畑人土と相俟つて一日の降雨は單に農作物を誕生せしめるのみならず水稻の植付にも益となるを得、農家の一般に困窮し居たるが

▲**田沼法院長**の任 菅内閣文庫遷職となり
▲**花岡光邦**法院長日十六日午後三時歸任せり

晉州 ▲市會廳修了 本
▲金融組合理事會議は十一日より開

輸出の急激な増加は従来

兗州に來者、官民多數の出迎を呼
 直ちに東宮歸館に入り、同日及び
 府に應じて兗州府隊を檢閲し十七
 午發木州へ向ひたるが十六日、
 木長官は同大將を官邸に招待晚餐
 罷したり（兗州）
 館に比し良好の結果を得たるは地方
 郷耆米を更に再調製したる又又
 貯藏したる地拂調製の漸々向上した
 るに因る本期の穀食或は倍等九九
 以上格一、四九、以下格三、九五〇
 前年より幾分富庶の有様なれば年々
 増一、一方の蠶業は漸々發達すべく、蠶
 桑の桑の植付も多自然然元々は
 秋蠶は又は一層希有さき多様な
 蠶の同販賣、蠶州多量の春蠶共
 同販賣は左の目標を以て執行すべく

の増加にして下格九八三呎を減

重要物產取引所に於ては六月一
より鐵筋を新設し此の取引機關
として鐵筋記株式會社を設立し併
の營業所を附屬せしめて之を信
託の手に移したるは既に如くなる
右は一面に於て日本商人の發展な
るも他の一面に於ては支那人の利
を奪ひたるが如き點を要するに
非ず小寺清澤等の巨額を始めて所
有の出資者は由勞紛が一齊に銀
子教大學り身土庫親道氏は十七日

せるのみ止て前例以來不合格米混
仕せざるは對製上深甚の注意を拂ひ
者と言ふ可しと松本主任は認めり
▲船師來仁 金光教監攝教首燭
總丈郎氏は仁川觀望の爲め十七日午
一時四十分仁川乘市中、還の後阿
比呂市而ふ▲明照君說教 十七日
日本旗に布ふ▲德山辨義上人隨行員とし
て宗教大學り身土庫親道氏は十七日

▲失竊海盜船二部長 七月旬間東京
▲廣安堂南善勝佛蘭官 赤橋正原實勝佛蘭官
▲廣安堂南善勝佛蘭官 青木北堂一等佛蘭官
同上
▲高州州府抄寫佛蘭官 ▲岡田直 內務省抄寫佛蘭官
野中兼三 警部廳佛蘭官 ▲中山重太郎 抄寫佛蘭官
▲野中兼三 警部廳佛蘭官
▲榮公立小倉學堂學生行動 十七日午後
▲夜祭七町氏團練佛蘭官(國分町) 十六
日西八時
▲川俣中興號佛蘭官(藤岡町) 同上
▲川俣中興號佛蘭官在裝三十名 十七日午前

入 事 消 息

野山江月十五日 四月十四日十一月十三

川商業會議所需舉人名簿は十七

の數日來銀相湖暴騰して倫敦銀塊
三十七兩七錢五分、十五兩一錢
三厘に移り連日二點五五兩を越し
今や實に三十九兩十六分の一とよ
十五年來の高値を呼び續移の盛
光州
水道は紙々本月八日實施施設及び通
選考を行ふ

蓄發。杖劍再渡海。行李則倉卒。

歐洲前平均七十五個時代比するに決し十七日迄水源地一萬三
 千坪山林五十町歩の税収を納り廿四
 日五日後を下して起すを奉行すべし
 日本輸入品は發行懸し支那
 産物は輸出に對懸し經濟上如何に
 影響あるを知れ可らず此とては
 實に思案に非ずなりと雖も悲し
 團品草紙御筆會員七名は十五日午
 半召集通牒し手實に斷言し
 書翰々々署名し
 署名すべしと傳へ
 亦此を餘の
 不如此に
 一に
 鴨鳴川
 名中
 徒多處
 雖
 思ふ所
 佳樹御沖
 手陳香齋
 續致詞し署名宛先各別

明君道中記

第一百七十九席

松平、段七郎は宇平、大宅、兵衛を伴へ
まして、暇府から東海道の名代の宇都
谷、峠へ参りましたが、此の峠に「関子
茶屋」といふのがあります其處へ入つ
て主従休息をしまして居ります。人の男
表から入つて参りますが、一人の男、赤
綿の衣類に小倉、帯、淺黄平股引に
大粒脚絆を着け草鞋穿き、小風呂敷
を背負つて服つた笠を左の手に持ち
ながら入つて参り、男「ハイ今日は、
何うか一服呉して下さい、主「是はお

のて、佐渡の中山崎の峠、阿部川
阿部川峠、頼子のさゝ、皆名物で
ございしますが、名物に比し物無し
がつて旨い物はございせん、イ
然し此方の関子は格別で、梨も是
ら上の方へある者でございしますが、
ならば御一絶にお供を願ひたいも
で云つた時に田村、宇平、次が、
「ヤ、頼人我々は急ぎの旅ではカ
それに足も速い方であるから一緒
に参らぬか、」頼人「さう、参ら、男



出なさいまし。さあ此方へお掛けな
すつて 男「相變つ此方へ御案内で結
構ですな 主「へ有難うございませ
う御覽で御昌をいたします」彼の男
は向うの袷に腰を掛け名物の團子
を取つて茶なぞを喫んで居りました
が、此方を見て 男「へ是は旦那様
御挨拶をいたしませんで恐入りで居
るやうでございませうか下りて居ら
しやうございますか 長「イヤ町人身共は
是より京都兩地を見物にいたすつも
りでな 男「へエお上りで居らつしや
いますか、道中をいたしますには餘
り暑くても時けず、と云つて寒い時
かも時けません恰度只今頃が好い氣
候でございませう 長「如何せん左様で
ある 此の宇都谷の名物は十四
子と申して中に刺さないで糸を貫い
てございます」が是だけが變つて居る

イヤ私も餘り足は早い方でありま
せん然し御迷惑とございますればお
へ御免を讀ませう 字「オ、然う
でくれ 男「左様なら御然然遊ばし
此處で御免を聞きます」と御走も
こゝに横せて彼の町人は足早に
て行く、長七郎は長「イヤ面白さう
奴だ 字「ぬへたから決して油断に
おません、火を見たら火事と思へ」
を見たら泥棒と思へ」と字「例が
いますが、腰のお籠を見て慣へ
筋をしかげる、あゝいよ者は油断
なりません、其故先へ讀りました
でございませう」三「字、次が傍を見
と己れが頂つた行李の包が見えま
んから 字「三宅氏、此處へ置いたた
と御存知ないか 宅「イヤ知らん 字
「信は彼の町人奴が此處へ置いた包
持つて参つたのであらう」兩人が

しぬる時に茶屋の主は「旦那様何か紛失でもいたしましたか」主「此處に置いたる包が見ねない」主「それでは今の奴が持つて行つたのでございませう、今の奴は年中此の街道を往つたり來たりして居る奴で、久しくいねませんでしたが又いつて來たものと見えて程々の店へ入つて仕」をして行つたのでございませう」主「主「奴は商人に申したくぢヨイ／＼見離るる男が主へエ能く見離げます、商人の妾になつて来るかと思ふも、既に化たり又職人殿になつたりして、やいねよう」主「それよ

登錄商標
MARUKAN



品質及價廉高日本第一也
美味滋養在於日本第一也

東京本電
油二
平發
通京
丁城
目出
張所
番

しい奴じや、遠くは行くまいから跡を追ひて彼の包を取返さねばならぬ。彼の包の中には紀州殿より四つはつたる三百兩の金子が入つて居る失つては大御前と追ひやう」と兩人は急いで街道筋を彼の町人の跡を追ひて参りました。此方は彼の町人侍の包を提げた儘ドシ／＼逃けて参りましたが、素より案内を知つたる亭三下先から右手の道邊へ切れて参り突當りの庚申堂の神へ奉て其の包を其處へ置、ホツと息を吐いて

[illegible]

りん病

有染病
を誘起
する原因
は、**リン**
の侵入に
由る。

強力を有する急性は勿論、慢性に原
因及淋糸を治す目的の内服薬に原
菌組織のシワの中に侵入し、急
菌に對しシワの可なり作用を急用
人を見本と求むべき無料送呈す

一圓廿錢慢性用一圓三圓急性用

大坂市南區藥川西丁

藥劑士 淺田藥局

振替大阪三登二四九番

のてけかへ夏^な真^ま……りよ夏^な初^{はつ}
はに粧^{しつ}化^け薄^{はく}

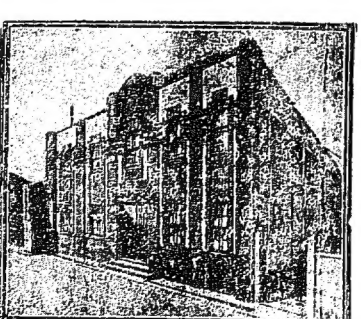
水^{すゐ}顔^{がん}美^び色^{しよく}白^{はく}


▲斯うもお化粧は
楽しいものか

仰せられます!!

例へば平生白粉の附きの悪い方やキノの荒い方
なごがお使いになりまして、誠に氣持よくム
ラが無く附いて、如何にも品のよい、氣高く美
くしいお化粧が出来、それが又何の骨折も要ら
ず、面白い程すら／＼と愉快に出来ますからで
す。これは白色美顔水は、普通の水と白粉とを
混ぜて製へた様なものとは、元來の成分と製法
とが全然違つてゐるからであります。

美顏白粉共々引續き、各宮家の御用を拜しつゝある此の學者の苦心の製品は、今や評判彌々高く、殊に段々暑さに向つてサツパリした皮膚の感じの喜はれる今の時節がら上中流御家庭に無くてはならぬお化粧料となつて居ります。確に怎麼にお化粧を楽しくさせるものはありません。



| | | | | | | | |
|---|---------|--------------|--------------|------------|---------------|------------|-----------------------------|
|  | 桃谷研究試驗所 | 所長 藥學士 桃谷幹次郎 | 技師 理學士 西澤勇志智 | 全 醫學士 米倉昌達 | 全 千葉藥學士 小磯勝次郎 | 全 藥學士 齋藤銳助 | 顧問 藥學博士 丹波敬三氏 醫學博士 山本淳二氏 |
|---|---------|--------------|--------------|------------|---------------|------------|-----------------------------|

字佐美内務部長閣下題字
小原農商工部長官閣下序文

京城日報社編纂

府及學校組合法規提要

勸令、聯合、附令、訓令、通牒、特許、附則、細則、大之、何規、の、満、は、最、上、月、卷、に、添、附、した、る、何規、の、し、て、收、め、る、を、以、て、附、發、令、合、は、固、く、内、地、人、を、學、校、組、合、に、添、合、資、質、目、位、上、の、者、は、其、の、言、を、供、た、る、所、也、體、の、良、案、考、書、な、る、は、言、を、供、た、る、所、也、

大賣捌元

京城太平通堂
總發京城三通堂
○丁目番

裝幀

摺帶に収められし紙數は三百餘頁總計布面金葉珍文に入りぬ必要事項の記入に便せし改正文字の飾りたる白紙を綴り込みし更なる爲に特異の上海紙を綴り込みし爲に紙末に「一頁の白紙を綴り込みし爲に紙末に「一頁の白紙を綴り込みし爲に紙末に」の意なる一端を綴りしに足る

京城日報社代理部

△定價壹圓半
送料本社負

消化と
毒けし
仁丹
ボツくご
悪疫の流行
する時分誰方も仁丹召上り
御用心の肝要!!
金言
「常の人心は
し百姓の心な
しを以てす
心と必ず
(孝子)」

日八十月六
(頁八てせ合と刊タ)

「**毛皮**の**成**は市場に重要な地位を占めてゐる。其地や自家用の**毛皮**は、**オーストラリア**の**毛皮**が主である。其の他、**イタリヤ**の**毛皮**も大抵は猫の毛皮である。」と云ふ。

三、宋代の産業（其一）

(總論) 市官を下げしめ、
之を、津州の市易司をしめしめ下しめ、
之を行ふこと久しからず、津州の津州の
弊害が^{しめしめ}續出した。官をしめしめ自しめしめ官
するのて、賤いには市ひ、貴いには
賣る、されど弊害の一つ、商人が商
品を持つて某州に入ると、先づ某州
の市官しめしめにしめしめ行くのが法であるが、商人
は多く他の道より經過するので、商
税が減する、これが一つ、某州の商
品を抑へて他郡へ行かためので、
抑へるにつき種々弊がある、これ
が一つ、他郡の商品が来ぬので、物
價が高まる、これが一つ、官物を買
ふのは利便を減し、これが一つ、
官また利に民から利息を取る、
これが一つ、錢を借りて抵當を出す
のは轉轉して産を破る、これも
一つ、貧人及び無賴の子弟の低當物
として借りたものは、釐る利息をぜ
取ふことが出来ず、また之を罰する
もの、たに名目上の利息のみであつて
實質は少しも得られぬ、これも一
つ、神宗この弊害を聞き、改めやうと
したが、王安石は堅く執つて動か
なかつた。故に宋の商業は、神宗
に早く已に衰頹の期に入つた。

米力西漸

歐洲戰事後、他國、中、支、那に於て最も活躍する國は米國ならむと謂ひ得る。

米國に既に孤立的外交の衣を脱いで、色彩の強い世界政策の衣を纏つて居る。ワシントンが「我が米國の外交は、鷹の眼を主眼とし、政治的關係より善さかるを以て實地なりとす」と宣言したる外交政策は遂に米海軍の國ではなかつた。米國の平和主義、對外、干涉主義は

既に此の國に於て是れに於て勢力を伸張せしむべき最も自立的の方針は西である。太平洋を支配し、更に洋を縦つて東洋に向つて進まねばならぬと云ふのである。第一はアルト氏を中心とせるので、國力南進主義とも謂ふべく、米國の進むべき道は正しく、東方ではなからぬ。米國としては、此に比しよよりは南に向つて勢力を最も有利なりとす。米國の企望は雄飛の大舞臺は亞非利加である。と云ふのである。此の二箇の意見は

時在雨顛りに至り候し今トテ大飲
 候ひしが今朝日を覺せば此はしき

[illegible]

苦。一盤風菜一鉢。

入南郊康欲消野婦村婦喚杜招
 木末能乾粒不封詩非是麥苗
 香松
 有香椒堆若丘隱風冷欲霜
 鐵仍紅班班滿庭
 采麥
 煖其奈自家饑底寒

京城抄

參拾參坪
 說實價額金四百拾貳圓五拾錢也
 賣中立人東京建物株式會社
 所有者井上貞傳
 政府寬勵洞貳拾地
 參拾七坪

中野 橫六

城府榮町叁拾五番地
賣價金六百五拾圓也

統賣價額金六百五拾圓也
前榮町四拾畝地
統賣價額金六百五拾圓也
前武拾七坪
統賣價額金六百五拾圓也

| | | | | | | | |
|----------|------|----|----------|------------|-------|--------|----------|
| 易郡延福里拾壹地 | 助所所有 | 立人 | 東洋拓殖株式會社 | 統賣額金六百五拾圓也 | 地六拾八坪 | 町四拾壹番地 | 賣金六百五拾圓也 |
|----------|------|----|----------|------------|-------|--------|----------|

拾九番地 八圓也

[illegible]

瓦肆，平家，趙本，壹棟。
瓦肆，平家，趙本，壹棟。
瓦肆，平家，趙本，壹棟。

[illegible]

對參拾七坪五合
魚階坪貳拾八坪七合
賣價銀五百拾七圓也
後賣市立人費田
雪上

府城鐘路五丁目七拾參番地
貳拾七坪
上二號設
瓦倉家建本家壹棟
廿拾方坪
貳拾方坪
右賣金八拾七圓五錢銀也
不強賣中立人占野權
不強賣所有者清水政

商業登記公告
 東京市商業登記所公告
 東京市商業登記所公告
 東京市商業登記所公告

東京市商業登記所公告
 東京市商業登記所公告
 東京市商業登記所公告

東京市商業登記所公告
 東京市商業登記所公告
 東京市商業登記所公告

東京市商業登記所公告
 東京市商業登記所公告
 東京市商業登記所公告

東京市商業登記所公告
 東京市商業登記所公告
 東京市商業登記所公告

成功した貯金の實驗
 生活の経済生活を改善する
 家庭の経済生活を改善する
 家庭の経済生活を改善する

主婦之友夏季特別號
 家庭の経済生活を改善する
 家庭の経済生活を改善する
 家庭の経済生活を改善する

進むべき道
 人生の行路を導く
 人生の行路を導く
 人生の行路を導く

支那の真相
 支那の政治経済を解説する
 支那の政治経済を解説する
 支那の政治経済を解説する

代書大博士
 代書業務を専門とする
 代書業務を専門とする
 代書業務を専門とする

